

私が逃げていたこと

高三

東日本大震災から四年。「あなたにとって家族とは何ですか」というテレビ番組が放送されていました。私がもし聞かれたら、「守る人」と答えます。

以前は自分は守られていると感じていました。

私は六人家族で、双子の姉、祖父、祖母、母、父と暮らしています。私が車椅子生活のため、家は広く、自分の手の届く位置に物が置いてあります。ドアはスライド式、洗面所は広くて車椅子が入るようになっています。「あなたが大きくなる前に家を取り壊して建て直しをした。」と家族から聞いて、家族の自分に対する心配を、申し訳ないと思っていました。また、てんかんの発作があるため私を一人にしないようにと、たくさんのことが私中心に回っています。

姉は、「家が好きだから。」と言って土日は友達と遊ぶこともなく家にいます。もし私が逆の立場だったならば、土日は友達と遊ぶためにヘルパー

さんに頼み、自分の時間を作りたいと思いますが、姉はそのようなことをせず家にいます。親の用事で二人になることもありましたが、そのとき、必ず親が心配するのがトイレでした。自分で立つこと、歩くことのできない私は、誰かに頼んでトイレに行くしかありません。姉に何回も頼むのは悪い、という感情に駆られてしまい、呼べなくなることもありました。

親に対してもそうでした。母には、気楽に過ごしてほしいと思い、新しい友達はあまり呼びませんでした。休みにはゆっくりさせてあげたいとも思っていました。誰も巻き込まずに家族が楽しめるようにと考えていました。自分のことよりも家族のことを一番に考えていました。しかしそれは間違った優しさでした。それが間違った優しさだと気が付いた出来事がありました。ワクチンの副作用が現れたことよって、生きることので精一杯になったことです。

毎日身体の状態が違い、昨日は元気でも今日は悪く、明日学校に行けるか分からないという副作用で今も悩んでいます。痛み、かゆみ、付随運動、

気持ちの面、幻覚などたくさんその日の状態と闘います。小、中学校のときより休みが多くなりました。

治療方法が見つからないため、母はいい治療法を探し調べるといふことを繰り返しています。そして、その治療費を稼いでくれます。私が早退する時は祖父、祖母が迎えに来ます。その時、お年寄りに迷惑をかけるなんてとマイナス思考になります。そしてこれから自分がどうしたらいいのかわからなくなります。この先、真っ暗だと。しかしその時、身体が良くなったときの家族の笑顔をふっと思い出したのです。その笑顔が見たい。そのためには自分が前向きに笑顔でいなくてはと思いました。身体の状態が悪いと笑顔がなくなり、外にも行けなくなります。その時の落ち込んだ家族の姿を見たくありません。

家族の笑顔を見るためには、まず自分が正直になり、どんなことでも言うことが大切だと思いました。今考えると、自分が前に進むのが怖かったです。そして、自分がチャレンジすることを避けてきたのです。

自分が成人するまでに安心させよう。しかし安心させると言っても、副作用を克服するには時間がかかります。それに気が付かず焦っていました。何よりも必要なのは自分の身体、「命」なのだということに心から気が付きました。行動しよう。そして自分がしたいことを本気でやろうと思うようになりました。

決してワクチンを推奨した人たちを許した訳ではありません。今も打たなければ良かったと思っています。でもこの出来事があって、本当に大事なのは自分自身で、自分の行動に自信を持つことなのだ。それができれば私自身が心から笑顔になる。それが、家族に今すぐできる優しさだと考えました。失敗しても恐れずに行動すること。それが本当の優しさだと思いました。自分が心からの笑顔で笑える場面が今より増えれば、親の心配は減るのだと思います。

私の「守る」人たちは、私の元気な姿を見せることで守ることが出来る。私はそう信じています。